

(資料④)

子どもたちが自らひびき合うために私たちのできること (教師の出所)

書き出している教師の出所は、**適時・適材・適所であり、発達段階や学級の特徴、教科の特性によって異なります。**ただ、書き出してみると、日頃から考えていなければならないことが見えてきます。実践を通し、さらに充実させていけたらと考えています。

ひびきやすい環境づくり

ソフト面

- ・お互いの意見を尊重できる人間関係づくり
- ・各学級での「聞く・話す」ルールづくりと指導の徹底
- ・低学年からの積み重ねる反応の仕方、友だち同士でのやりとりをスムーズにする話し方の指導

ハード面

- ・互いの顔が見える、みんなで話し合いやすい座席
- ・考えを深めるきっかけになる掲示物（これまでの学習の流れなど）
- ・振り返ることのできるノート指導
- ・子どもが「ひびき合おう」とするまで、「待つ」教師の姿勢

自分たちが考えたい「問題」にするために

- ・子どもたちの意見を尊重し、認める態度
(自分の予想とは違う意見や考え、少数派、声の小さい意見 に対しても)
- ・子どもたちの意思決定を励ます態度
- ・子どもたちの意思決定を促す態度や言葉がけ「どうする？」
- ・自分たちの話し合ったことや、自分たちが決めたことが、
次時につながっていく学習展開
- ・単元の初めの出会いを大事にし、その問題に出会うまでの思考の流れを考える。

友だちの意見から学ぶために

- ・異なる意見や考え方が、交流できる場の設定。
(代表的な意見をピックアップする方法、座席表のプリントを配布する方法など)
- ・友達の意見がわかりやすく、ずれや、重ね合わせていきたいものがなんなのかがすぐわかる板書になっている⇒(板書の構造化)
- ・相手の考えを伝えやすく、そしてわかりやすく示すための工夫をする。

具体物・実物・模型（拡大模型） 動作化
ホワイトボード 短冊 キーワード化 グループ化
図式化 式化 意見の書かれた座席表のプリント

(資料④)

- ・ 互いの意見が分かり合えないとき⇒言い換えや理解を共通にする説明
- ・ 話の内容がずれたとき⇒軌道修正

単元のねらいに近づく変容＝ひびき合いにするために

- ・ 普段のみとりや、人間関係から、「だれが、どのような反応をするのか」具体的に想像し、授業のながれを予測する。
- ・ どこで「～だからこの考え方がよい」など考えを深めていくきっかけになるのかを考えておく（焦点化）

友だちの意見	具体物	教師からの情報	意見のずれ
テキストの中の言葉	データ	写真	

- ・ そのために、だれのどの言葉を重んじるのかを考えておく
- ・ 「立ち止まり」、「切り返し」や、「ゆさぶり」、「補助発問」、「意図指名」など、考えを深めたり、考え直したりするきっかけになる言葉をできるだけたくさん用意する。
- ・ 子どもたちが、行き詰った時や問題解決に必要な情報提示。考えのヒントになる言葉や、具体物を準備しておく。